

# 2020年3月期 決算補足説明資料

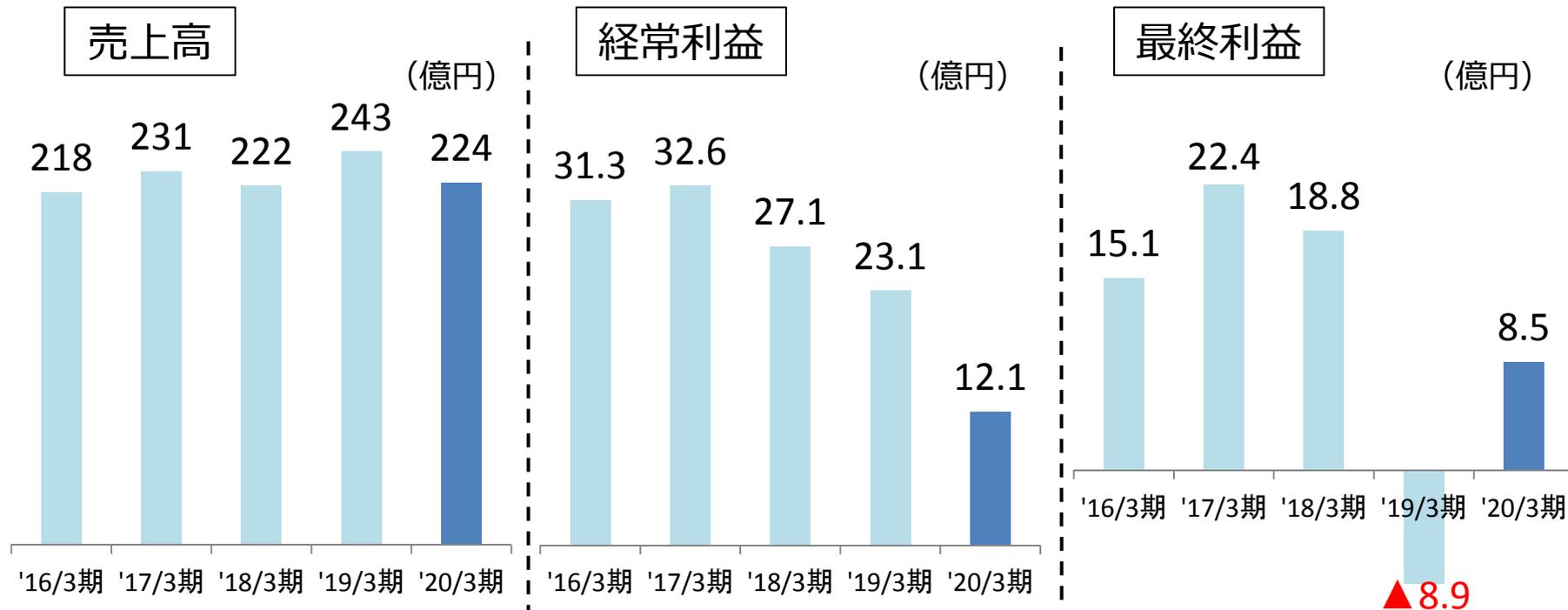


証券コード:5237

1. 2020年3月期 連結決算の概要
2. 連結品種別売上高推移
3. 連結貸借対照表前期比較
4. 連結キャッシュ・フローの状況
5. 連結経営指標
6. 中期経営計画（2021年3月期～2023年3月期）
7. 次期業績予想
8. 株主還元方針

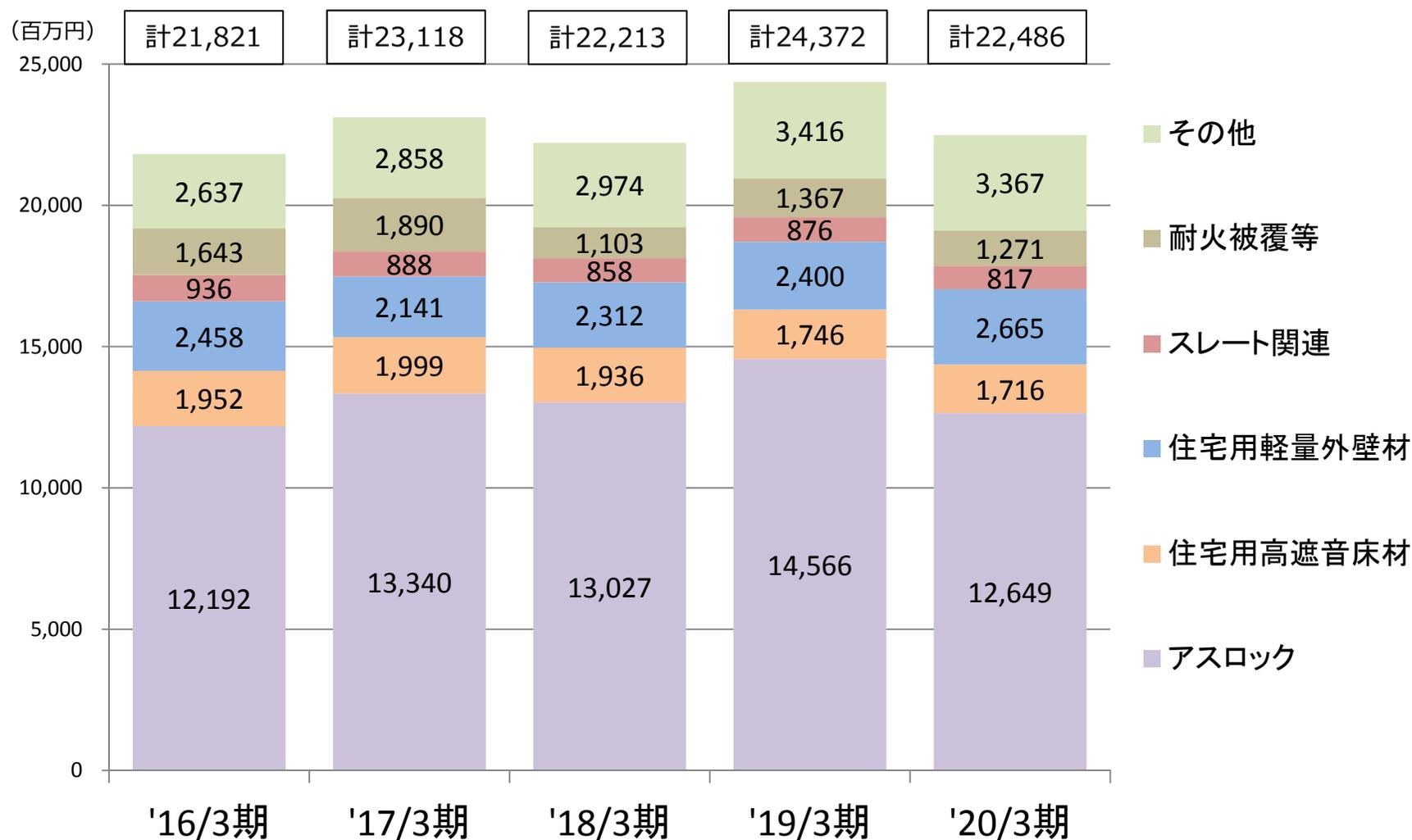
# 1. 2020年3月期 連結決算の概要

- 売上高224億円（前期比7.7%減）、経常利益12億円（前期比47.4%減）、最終利益8.5億円（前期比17.4億円増加）。
- 売上高は、5月10日発生 of 当社埼玉工場火災及び働き方改革の影響により減収。
- 経常利益は、減収の影響に加え、物流費高騰と人件費増加により減益。
- 最終利益は、前期は特別損失に製品補償費用34.7億円を計上。当期は特別利益に保険差益6.9億円、製品補償引当金戻入益3.9億円を、特別損失に火災関連損失8.6億円を、それぞれ計上。
- 2020年3月期業績に新型コロナウイルスに関する影響は無し。



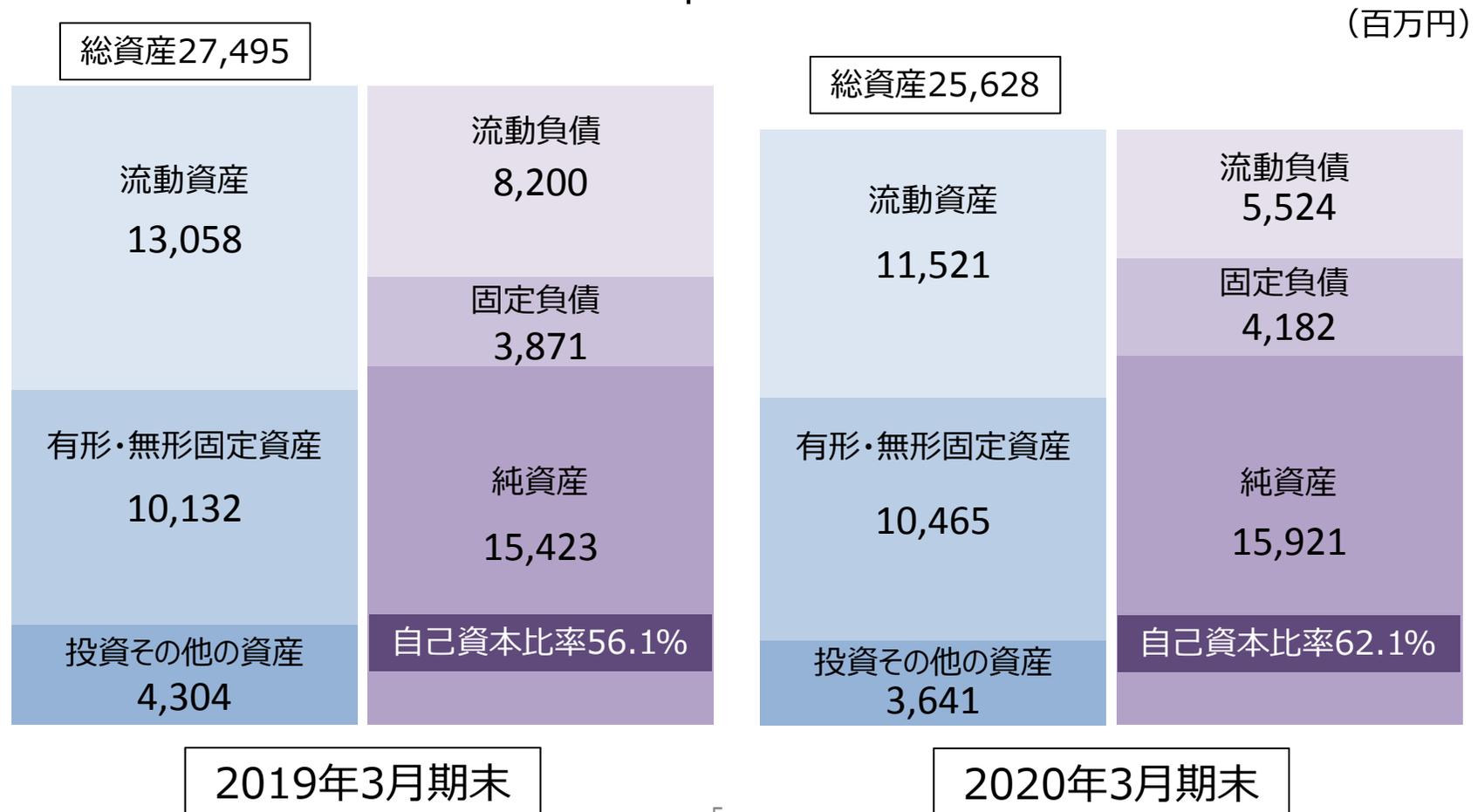
## 2. 連結品種別売上高推移

- 2020年3月期連結売上高は、火災の影響及び働き方改革による時間外労働の上限規制に伴う工場稼働日数の減少の影響等により前期比7.7%減収。



### 3. 連結貸借対照表前期比較

- 総資産は前期末比18.6億円減少。主に受取手形及び売掛金14.5億円減少、現金及び預金6億円減少による。
- 負債は前期末比23.6億円減少。主に製品補償引当金20.2億円減少による。
- 純資産は前期末比4.9億円増加。主に利益剰余金7.4億円増加による。
- 自己資本比率は62.1%で前期比6.0pt増加。

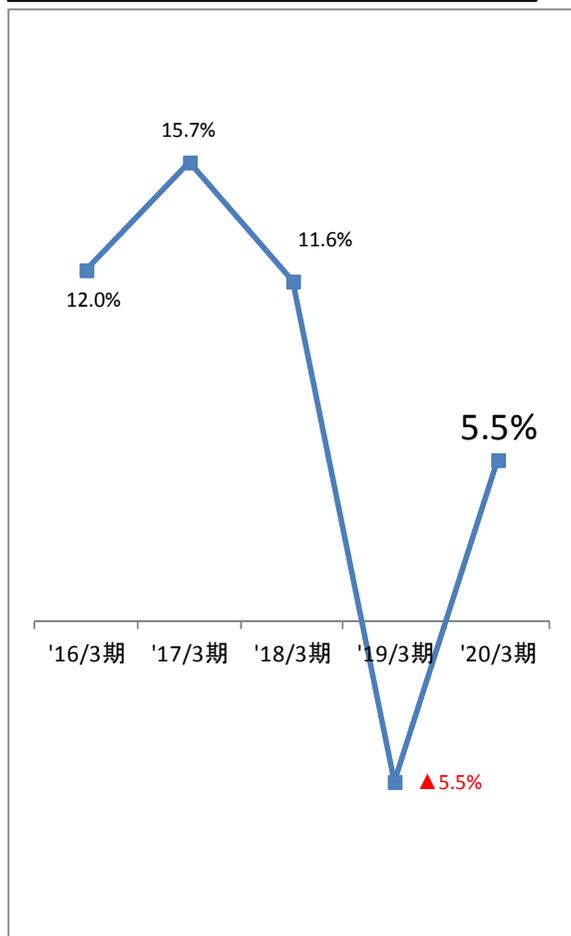


## 4. 連結キャッシュ・フローの状況

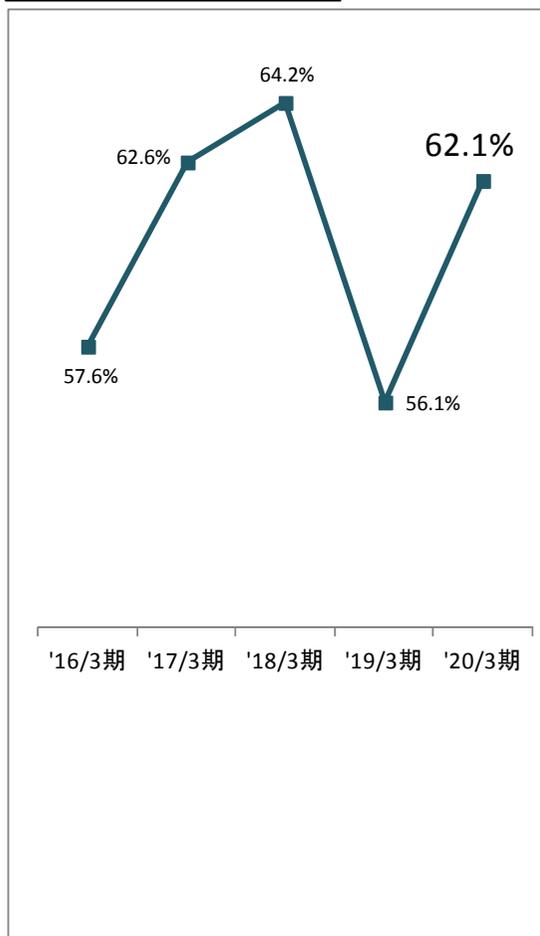
項目	2020年3月期 (百万円)	備考
税金等調整前当期純利益	1,334	
減価償却費	590	
製品補償引当金の増減額	▲2,021	製品不具合対応の進捗による取崩し
火災関連損失引当金の増減額	331	埼玉工場火災に関する引当
その他	433	
営業活動によるキャッシュ・フロー計	667	
投資活動によるキャッシュ・フロー計	▲1,140	主に有形固定資産の取得
財務活動によるキャッシュ・フロー計	▲121	主に配当金の支払い
現金及び現金同等物の換算差額	▲13	
現金及び現金同等物の増減額	▲607	
現金及び現金同等物の期首残高	5,393	
現金及び現金同等物の期末残高	4,786	

# 5. 連結経営指標

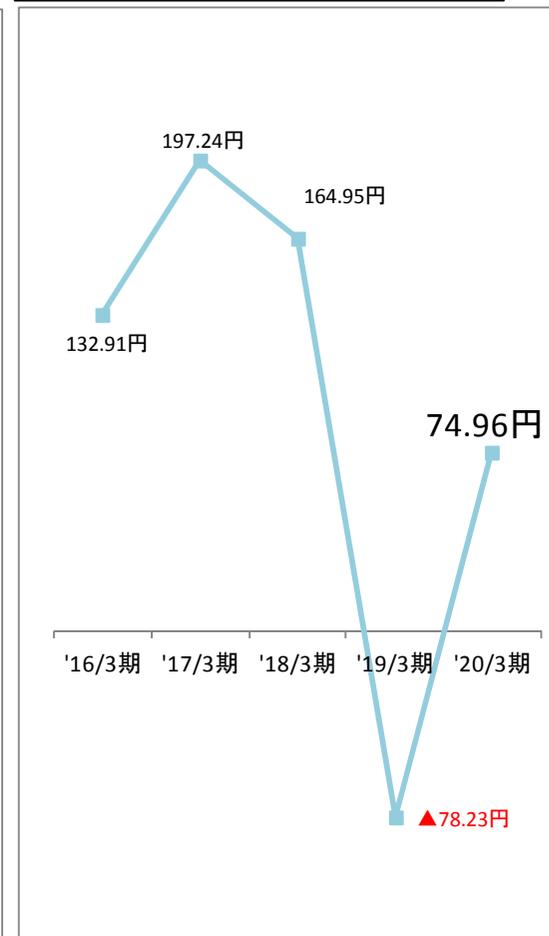
自己資本当期純利益率



自己資本比率



1株当たり当期純利益



※2016年10月1日付で普通株式について2株を1株の割合で株式併合を行っており、2016年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

## 6. 中期経営計画（2021年3月期～2023年3月期）

### 経営基本方針

全員の創意で常に新しい商品を世に問い、  
居住空間の創造を通して21世紀を勝ち抜く企業集団を作ろう

### 経営理念

#### [存在意義]

人々の生活と安全を守り、快適な住環境を創り出す部材・システムを提供し、社会の発展に貢献する企業を目指す。

#### [人間尊重]

社員一人ひとりの人間性を尊重し、働きがいのある明るい職場を作り、個々の能力向上を図る。

#### [未来指向]

未来に向けて、常時新しい感性を持って創造・開発を行い、独自の技術を結集した世界に通ずる商品を提供する。

#### [責任遂行と業績還元]

社員全員が利益を追求し、達成することにより、株主・社員・地域への還元を継続して行い、社会と共生を図る。

## 6. 中期経営計画 (2021年3月期～2023年3月期)

### 目標とする企業像

1. 建設部材、システム分野での開発型企業を目指し、建築・住宅・土木の3市場での安定的な商品供給による強固な経営基盤を持つ企業
2. 技術力を背景とした差別化（品質・納期・コストの絶対的優位性）を推進するオンリーワン企業
3. 環境保全に主眼を置いた次世代の事業を模索し、人々にやすらぎと安心を提供し、社会への貢献を企業の発展と考える企業

# 6. 中期経営計画 (2021年3月期～2023年3月期)

## ＜基本方針＞

2027年の創業130周年に向け、経営基盤の強化と事業の更なる発展を図るため、いつも新しいことを追求、全社三大戦略※を展開し、全領域での差別化を推進する。  
2023年3月期 経常利益率12%以上を目指す。

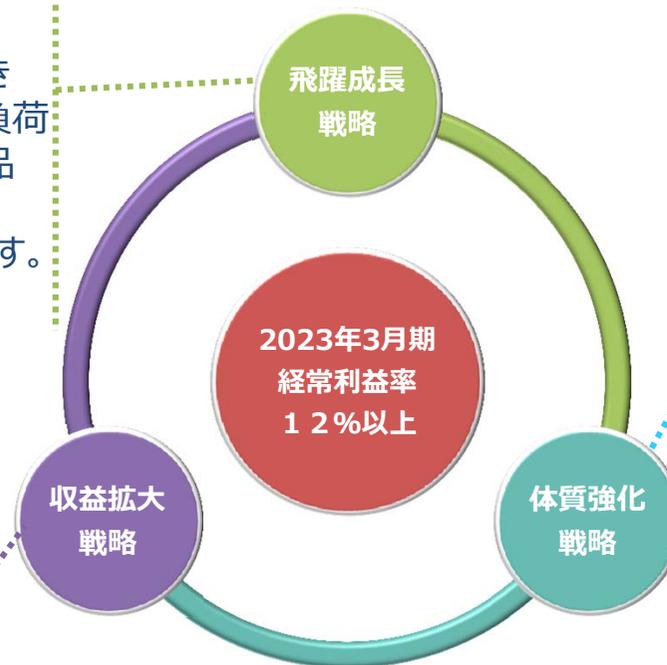
※ 全社三大戦略：体質強化戦略・収益拡大戦略・飛躍成長戦略

### 飛躍成長戦略

- 顧客の想像を超える技術開発に基づき高耐久化・高機能化・省力化・環境負荷低減・デザイン性に主眼をおいた新商品展開で使用部位の拡大を図る。
- 新商品売上高比率30%以上を目指す。(2020年3月期19.0%)

### 収益拡大戦略

- 基幹事業である一般建築向けアスロック・アルカスの川上営業強化による高付加価値商品の拡販と受注率の向上を図る。
- 住宅建材事業の拡大に取り組む。
- 農業用肥料マイナグの市場開拓と拡販を推進する。
- 顧客満足度を向上させる施工体制の確立により受注拡大を図る。



### 体質強化戦略

- 製品・施工の品質保証体制の強化と設備改善・増強により、商品の安定供給を継続する。
- 工場部門におけるNNPS活動の実行により、高品質・短納期・低コストを実現し、顧客満足度の向上を図る。
- 物流環境の変化へ対応し、スムーズな出荷体制を確立する。
- システム化による業務効率向上、問題発見解決型の人財育成の実行により経営基盤の強化を図る。

なお、中期経営計画定量目標につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を長期的に見通せないため、公表を見合わせます。

## 7. 次期業績予想

2021年3月期の連結業績予想につきましては、当初、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の市場環境及び需要動向に基づき計画を策定いたしました。当該感染症の影響を踏まえ、以下の通り見込んでおります。現時点で当該感染症の収束時期を見通すことは困難であります。2021年3月期1年間にわたり、建設工事の中断・延期の断続的な発生や、経済活動の停滞に伴う建設計画の中止等により当社製品の販売に影響すると仮定して作成しております。

今後、状況の変化等により業績予想の修正の必要性が生じた場合は、速やかに開示いたします。

(金額:百万円)

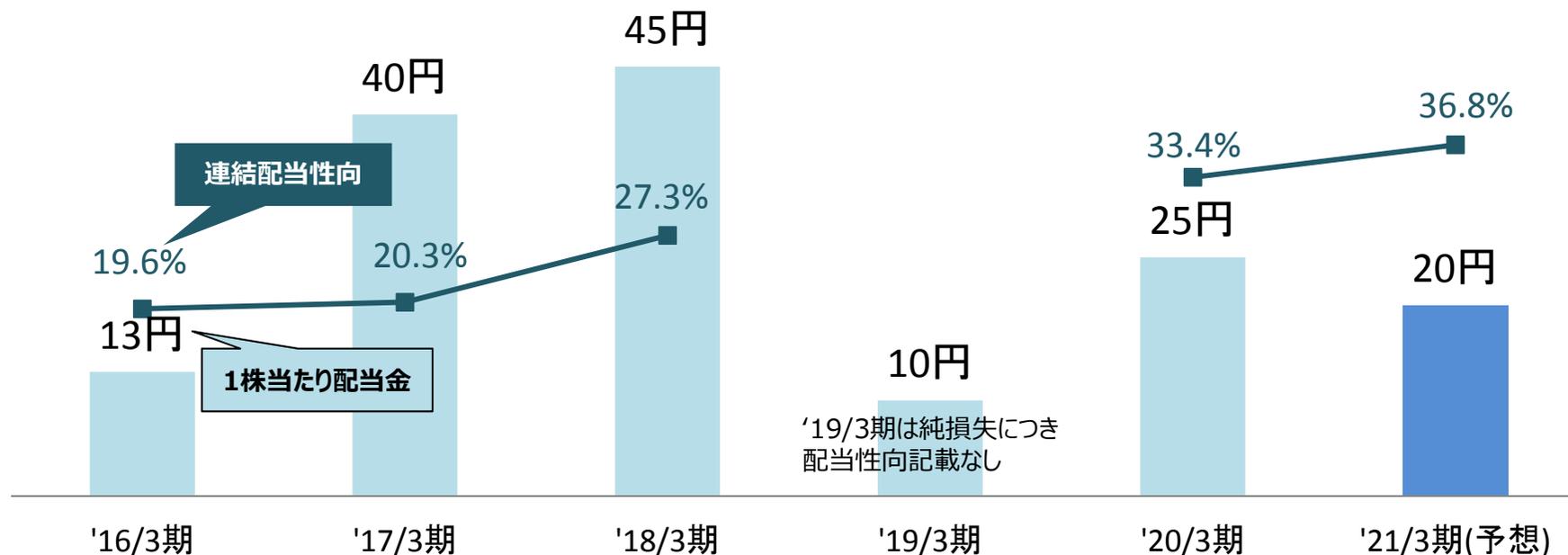
	2020/3月期		2021/3月期予想 (当初計画)		コロナ影響	2021/3月期予想		前期比	
	金額	利益率	金額	利益率		金額	利益率	金額	利益率
売上高	22,486		23,400		▲2,400	21,000		▲1,486	
営業利益	1,201	5.3%	1,630	7.0%	▲680	950	4.5%	▲251	▲0.8pt
経常利益	1,215	5.4%	1,630	7.0%	▲680	950	4.5%	▲265	▲0.9pt
最終利益	854	3.8%	1,070	4.6%	▲450	620	3.0%	▲234	▲0.8pt

## 8. 株主還元方針

当社は、将来の設備投資、研究開発に備え、経営基盤及び財務体質を強化すべく内部留保の充実を前提とし、連結配当性向30%を目途に業績に見合った株主への安定的な配当の維持及び適正な利益還元に努めてまいります。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、株主総会であります。

配当金推移



※2016年10月1日付で普通株式について2株を1株の割合で株式併合を行っております。  
2016年3月期の1株当たり配当金は当該株式併合前の実際の配当金の額を記載しております。

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって大きく異なる可能性があります。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。